

会 議 記 録

会議名 産業教育常任委員会

開催日 令和3年9月8日(水)

開会 午前 9時00分

閉会 午前 9時43分

出席者 委 員 委員長 針 谷 正 夫

小久保 かおる 坂 東 一 敏 針 谷 育 造

白 石 幹 男 広 瀬 義 明 松 本 喜 一

議 長 小 堀 良 江

傍 聴 者 森 戸 雅 孝 小 平 啓 佑 浅 野 貴 之

大 浦 兼 政 古 沢 ちい子 大 谷 好 一

茂 呂 健 市 内 海 まさかず 氏 家 晃

千 葉 正 弘 永 田 武 志 福 富 善 明

関 口 孫一郎 大阿久 岩 人 梅 澤 米 満

福 田 裕 司 中 島 克 訓

事務局職員 事務局 局長 神 永 和 俊 議事課 長 江 面 健太郎

副 主 幹 岩 崎 和 隆 主 事 齊 藤 千 明

委員会条例第21条の規定に基づき出席を要求した者の職氏名

産業振興部長	秋間	広行
教育次長	名淵	正己
商工振興課長	櫻井	茂
農業振興課長	佐山	祥一
農林整備課長	田名網	清
産業基盤整備課長	中田	芳明
学校教育課長	金井	睦
学校教育課 グローバル教育推進室長	平山	裕
学校施設課長	柿沼	宏和

令和3年第6回栃木市議会定例会
産業教育常任委員会議事日程

令和3年9月8日 午前9時開議 全員協議会室

日程第1 議案第89号 令和3年度栃木市一般会計補正予算（第4号）（所管関係部分）

◎開会及び開議の宣告

○委員長（針谷正夫君） ただいまの出席委員は7名で、定足数に達しております。

ただいまから産業教育常任委員会を開会いたします。

（午前 9時00分）

◎諸報告

○委員長（針谷正夫君） 当常任委員会に付託されました案件は、各常任委員会議案等付託区分表のとおりであります。

◎議事日程の報告

○委員長（針谷正夫君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

◎議案第89号（所管関係部分）の上程、説明、質疑、討論、採決

○委員長（針谷正夫君） ただいまから議事に入ります。

日程第1、議案第89号 令和3年度栃木市一般会計補正予算（第4号）の所管関係部分を議題といたします。

当局から説明を求めます。

なお、説明欄に記載されております金額については、読み上げを省略していただいて結構です。
櫻井商工振興課長。

○商工振興課長（櫻井 茂君） 皆さん、おはようございます。本日はよろしくお願いたします。

ただいま上程をいただきました議案第89号 令和3年度栃木市一般会計補正予算（第4号）のうち、所管部分につきましてご説明させていただきます。

まず、歳出からご説明いたします。初めに、6款農林水産業費につきましてご説明いたします。恐れ入りますが、補正予算書40ページ、41ページをお開きください。1項2目農業総務費につきましてご説明いたします。補正額は1億5,970万円の減額でございます。右の説明欄を御覧ください。職員人件費につきましては、職員課所管となりますが、定期人事異動及び組織改編に伴い、当初見込んでおりました所属の人数や役職等に変更が生じたことによる差額分を精査し、減額するものでございます。以下、職員人件費等につきましては、同様の理由により補正するものでありますので、以後の説明は省略させていただきます。

次に、1項3目農業振興費につきましてご説明いたします。補正額は2,768万4,000円の増額でございます。右の説明欄を御覧ください。栃木市農業再生協議会補助事業費につきましては、コロナ禍の中、米価格の下落が見込まれることから実施しました米生産者経営意欲推進事業費による新規

需要米への作付転換面積が、大幅に増えたことにより増額するものが主なものでございます。

次の農業生産振興事業補助金につきましては、麦・大豆への作付転換と生産圃場の団地化に取り組む経営体を支援する国庫補助事業に市内農家の計画が承認されたことにより、増額するものが主なものであります。

次に、5目農地費につきましてご説明いたします。補正額は4,861万3,000円の増額でございます。右の説明欄を御覧ください。県単独農業農村整備事業費につきましては、県から追加採択を受けた寄居地区の農道整備に係る工事費及び測量設計委託料を増額するものでございます。

次の市単独土地改良事業補助金につきましては、藤岡地区のU字溝敷設工事に対する補助金を増額するものが主なものでございます。

次の市単独農業農村整備事業費につきましては、大光寺町の農業用排水樋管の改修整備工事費を増額するものが主なものでございます。

次に、猿湊川緊急浚渫事業費につきましては、大平町富田地内を流れる猿湊川の大雨時の溢水を防ぐため、堆積土砂を除去し、流量を確保するための工事費でございます。

続きまして、2項2目林業振興費につきましてご説明いたします。42、43ページをお開きください。補正額は32万円の増額であります。右の説明欄を御覧ください。明るく安全な里山林整備事業交付金につきましては、岩舟町里山の会が取り組む里山林の下草刈り等に対する交付金を増額するものでございます。

続きまして、7款商工費につきましてご説明いたします。44、45ページをお開きください。1項2目商工業振興費につきましてご説明いたします。補正額は250万円の減額であります。右の説明欄を御覧ください。プレミアム商品券事業費補助金につきましては、新型コロナウイルス感染症対応臨時交付金を活用した下段のプレミアム商品券事業補助金（新型インフルエンザ等）事業への組替えにより、全額を減額するものでございます。

次のプレミアム商品券事業補助金（新型インフルエンザ等）につきましては、市民の消費意欲を喚起し、コロナ禍における影響が続いている市内事業者を支援するため、プレミアム率30%の商品券を総額2億8,600万円分発行するための補助金でございます。

次の緊急事態宣言対応一時支援補助金につきましては、補助金額の確定により減額するものでございます。

次の1項3目工業開発費につきましてご説明いたします。補正額は13万8,000円の増額でございます。右の説明欄を御覧ください。企業誘致事業費につきましては、栃木県が主催しますとちぎ企業立地・魅力発信セミナーに参加し、知事と共に本県、市及び産業団地のプレゼンテーションを行うための旅費でございます。

続きまして、10款教育費につきましてご説明いたします。補正予算書58、59ページを御覧ください。1項2目事務局費につきましてご説明いたします。補正額は1,735万8,000円の増額であります。

右の説明欄を御覧ください。所管関係部分、上から2事業目、特別職人件費につきましては、職員課所管となりますが、4月より教育長給与の10%削減を実施しているためのものでございます。

次の会計年度任用職員人件費（学校教育課）につきましては、日本語指導員1人分の報酬の減額が主なものでございます。

次に、3目教育振興費につきましてご説明をいたします。補正額は249万9,000円の増額であります。右の説明欄を御覧ください。所管関係部分の教科書採択購入事業費につきましては、GIGAスクール構想に伴い、小中学校においてタブレット端末を用いた効果的な学習を推進するために必要となります授業目的公衆送信補償金でございます。

次の外国人児童生徒指導事業費につきましては、市内の小中学校に在籍し、日本語指導を必要としている外国人児童生徒が増加していることから、日本語指導サポーター等の活動回数を増やすための謝金でございます。

次に、10款2項1目学校管理費につきましてご説明いたします。60、61ページをお開きください。補正額は2,655万円の減額でございます。右の説明欄を御覧ください。所管関係部分は上から3事業目、会計年度任用職員人件費（学校教育課）につきましては、正職員の小学校技能員の減員に伴い、会計年度任用職員の学校用務員を増員するための事務補助等報酬が主なものでございます。

次の小学校コンピュータ管理費につきましては、フィルタリングシステム導入委託料及び大型モニター購入費の入札による執行残を減額するものでございます。

次に、10款3項1目学校管理費をご説明いたします。補正予算書は62、63ページをお開きください。補正額は607万円の減額であります。右の説明欄を御覧ください。中学校コンピュータ管理費につきましては、小学校と同様、フィルタリングシステム導入委託料及び大型モニター購入費の入札による執行残を減額するものでございます。

以上をもちまして所管関係部分の歳出の説明を終了させていただきます。

○委員長（針谷正夫君） 金井学校教育課長。

○学校教育課長（金井 陸君） 続きまして、歳入についてご説明をいたします。

恐れ入りますが、補正予算書の16、17ページをお開きください。13款1項4目農林水産業費負担金につきましてご説明をいたします。補正額は176万5,000円の増額であります。右の説明欄を御覧ください。土地改良施設緊急浚渫事業負担金につきましては、大平町富田の猿湊川で実施する緊急浚渫事業に対する大平西部土地改良区からの負担金であります。

続きまして、補正予算書の20、21ページをお開きください。16款2項4目農林水産業費県補助金につきましてご説明いたします。補正額は3,350万4,000円の増額であります。

1節農業費補助金につきましては、3,318万4,000円の増額であります。右の説明欄を御覧ください。1項目めの農業生産振興事業費補助金につきましては、県単補助事業、土地利用型園芸産地展開加速化事業及び国庫補助事業である水田麦・大豆産地生産性向上事業に対する県からの補助金で

あります。

次の経営所得安定対策直接支払推進事業費補助金につきましては、水田や畑における経営所得安定対策制度に関する推進活動や補助要件確認に必要な補助金で、県の交付決定額に基づく県補助金の増額であります。

次の土地改良事業費補助金につきましては、寄居地区で実施する県単独農業農村整備事業に対する県からの補助金であります。

次に、2節林業費補助金につきましては、32万円の増額であります。右の説明欄を御覧ください。元気な森づくり推進市町村交付金につきましては、岩舟地域で実施する明るく安全な里山林整備事業に対する県からの交付金であります。

続きまして、16款2項7目教育費県補助金につきましてご説明いたします。補正額は151万2,000円の増額であります。右の説明欄を御覧ください。帰国・外国人児童生徒に対するきめ細かな支援事業費補助金につきましては、日本語指導を必要としている外国人児童生徒等に対して一人一人の日本語習得や学校生活への適応を支援するための県補助金の増額分であります。

以上をもちまして、令和3年度栃木市一般会計補正予算（第4号）の所管部分の説明を終了させていただきます。ご審議のほどよろしく願いいたします。

○委員長（針谷正夫君） 以上で当局の説明は終わりました。

お諮りいたします。本案については、歳入歳出を一括して審査いたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（針谷正夫君） ご異議なしと認め、そのように決定いたします。

ただいまから歳入歳出を一括した質疑に入ります。

なお、質疑に際しましては一問一答の方法により、ページ数もお知らせ願います。

質疑はありませんか。

松本委員。

○委員（松本喜一君） 59ページ、教育費の中の特別職の人件費の削減ということで、教育長が1割ということですけども、この削減された111万……

○委員長（針谷正夫君） 松本委員、所管外になりますので。

○委員（松本喜一君） 所管外ではないでしょう。

○委員長（針谷正夫君） 総務のほうの関係になりますので。

〔「すみません」と呼ぶ者あり〕

○委員長（針谷正夫君） 了解ですね。

次に移ります。

質疑はありませんか。

白石委員。

○委員（白石幹男君） おはようございます。よろしく申し上げます。

45ページのプレミアム商品券ということで、予算の入替えがあったわけですがけれども、事業規模というのが大分変わるような感じがしますけれども、従来のプレミアム商品券と今回の新型プレミアム商品券の内容の変更というのはどのようになっているのでしょうか。

○委員長（針谷正夫君） 櫻井商工振興課長。

○商工振興課長（櫻井 茂君） ご説明いたします。

当初は、一般財源で2億円の1割で2,000万円という形で考えていました。ただ、今回コロナウイルスの交付金の残額分をかき集めまして、プレミアム率を3割にしまして、総額2億8,600万円という形で市民の皆様の使い勝手がいいように組み替えまして、今回ご提案をさせていただいたところでございます。よろしく申し上げます。

○委員長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） そうしますと、9月議会でこれが通って、10月以降準備でやるわけですがけれども、今年度中というと3月までの事業になるのかなと思うのですがけれども、そういった準備とか市民に知らせる、そういうことに対してどのように考えているのでしょうか。

○委員長（針谷正夫君） 櫻井商工振興課長。

○商工振興課長（櫻井 茂君） この補正で、商工経済団体連絡協議会の皆様には大変なご負担をかけるところでございます。商工会議所が中心になっていただいているのですが、実はもともと当初予算でこのプレミアム商品券を実施するという予定でありましたので、9月1日から商工会議所とかで取扱店を募集しております。今月いっぱいという形で。その後10月以降になりまして、発売に対しての新聞折り込みとか周知をする予定でございます。実際発売は12月になってからの予定で考えております。12月から3月いっぱい使用ができるように、年末から年度末にかけてお使いいただけるように準備を進めているところでございます。

以上です。

○委員長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 毎年プレミアム商品券の事業というのをやっているのですが、参加協力店というのですか、これは本当に経済対策でもあると思うので、こういったところが協力店として参加しているのかというのはわかりますか。去年の実績でもいいのですが。

○委員長（針谷正夫君） 櫻井商工振興課長。

○商工振興課長（櫻井 茂君） 大規模、小規模に分かれますが、もちろん大きなところはイオンとか、その他大きなスーパー、1,000平米以上のスーパーを大規模店というふうにくくり分けをしているところなのですが、おおむね毎年600店前後のお店に参加していただいております。うち飲食店は前回は166店舗の応募でございました。

以上です。

○委員長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 新型コロナの経済対策ということであれば、大規模店舗よりもそうした中小業者というか、そういった飲食店とか、そういったところにより多く入ってもらおうということが求められると思うのですけれども、商工会議所とか商工会に入っていないところがあるのです。そういう中小零細の自営業とか、そういうところに対してはどのように周知しているのでしょうか。

○委員長（針谷正夫君） 櫻井商工振興課長。

○商工振興課長（櫻井 茂君） もちろん商工会議所等にはお願いはしておりますが、そのほかにも市の広報とかホームページで、募集のお知らせはしております。あと、市でやっているのは商工会議所の口コミですか、できるだけ入っていただきたいということで広報には努めているところでございます。

○委員長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） よろしく。売上げアップになるような対策になってもらいたいと。これは要望です。

次のいいですか。その下の緊急事態宣言対応一時支援補助金5,300万円の減と。これは6,000万円でしたっけ、予算規模が。ほとんど、700万円程度しか支出されていないということになるのですけれども、この原因は何なのでしょう。

○委員長（針谷正夫君） 櫻井商工振興課長。

○商工振興課長（櫻井 茂君） 当初6,000万円、申請者600件と見込んでいました。実際のところ、多くの事業者が国や県の補助対象となりまして、70件で済んでしまったと。表現が難しいのですが、70件止まりという形になってしまいました。言い訳というかあれなのですが、広報とちぎにも7月号、8月号と2回掲載しまして、ホームページとかいろいろ周知に努めたのですが、結果的には7月いっぱい70件という形になってしまいました。

以上です。

○委員長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） これは3割売上げ減でしたっけ。そうすると、5割以上売上げが減額になっているところが多くあったという、結果的にはそういうことになるのですか。

○委員長（針谷正夫君） 櫻井商工振興課長。

○商工振興課長（櫻井 茂君） そういう正式なデータというか、そういうのは国や県からはもらえていないのですが、結果的に市の補助金が少なくて済んでしまったという形は、やっぱり国、県の補助をいただいたというふうに推測をするところでございます。

以上です。

○委員長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 私も知ったのは、ホームページを見たという方からこんなのがあるのだねと言われて、あ、そうなのだという。そうなのだって、知っていましたがけれども、その人はホームページを見て、知らなかったと。それはもう申請期限ぎりぎり、7月で切れてしまうのですよね。そういう状況も聞いているものだから、周知方法とかにやっぱり問題点があるのではないかなと。対象者がいないのではなくて、そういう対象者に知れ渡っていないという状況があったのではないかと思うのですけれども、どうなのでしょう。

○委員長（針谷正夫君） 櫻井商工振興課長。

○商工振興課長（櫻井 茂君） 委員おっしゃるとおり、申請が70件と少なかったのは、確かに周知不足も、期間的な問題もありましたけれども。先ほど言いましたように周知は広報やホームページ、そのほかツイッター、フェイスブック、FMくらら、あと商工会議所の商工会議所ニュースという広報、そのほか各商工会にはもちろん情報提供して、補助金の用意はできていますからというご案内をして周知をしていただいたので、私たち商工課としてはできるだけ周知はしたというふうに私は思っております。

以上です。

○委員長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 予算がこれだけ余るということであれば、7月の申請期限ということではなくて延長ということも考えられたのではないかと思うのですけれども、そこら辺は検討したのでしょうか。

○委員長（針谷正夫君） 櫻井商工振興課長。

○商工振興課長（櫻井 茂君） 確かに、少ないから延ばしたいという願望もありましたけれども、ただ、国からの交付金ですので、余らせるともったいないというふうに思いまして、それならば今回のこの商品券にシフトしたほうがいいかなと思いまして、悩んだのですけれども、最終的にはこの商品券のほうに全部を持ってくるという形を取らせていただきました。

以上です。

○委員長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 余らせるともったいないということで、ただ、この商工費で言うと2,500万円減額になっているのです。例えば、減額にするのではなくて、2,500万円に予算規模を縮小して延長する、そういった方法もあったのではないかと思うのだけれども、どうなのでしょう。

○委員長（針谷正夫君） 櫻井商工振興課長。

○商工振興課長（櫻井 茂君） それは確かにできる限り集めてやったつもりなのですが、最終的にはこの金額になったというのが正直なところで、極力多くという形でももちろん財政にはお願いしていたことなのですが、これは結果でございます。

以上です。

○委員長（針谷正夫君） よろしいですか。

ほかに質疑ありませんか。

広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 40、41ページ、6款1項5目農地費の中の一番下にございます猿渕川緊急浚渫事業費346万5,000円でございます。この猿渕川、説明にございましたとおり大平の富田というところに流れておりまして、台風19号時、さらにはそれ以前の大雨時においてもかなりの被害が出た地域でございます。北側は田んぼが一带に広がっておりますが、南側には住宅街が広がっておりまして、多くの家屋が浸水を受けた地域ということで、今回浚渫工事をしていただくということで非常にありがたい、地元の要望がやっとなかなか思っているところでございます。これは負担金で約半分、残りが市債で賄われている事業でございますけれども、この340万円程度の金額でどれほどの効果が認められるのか、まずお伺いをいたします。

○委員長（針谷正夫君） 田名網農林整備課長。

○農林整備課長（田名網 清君） お答え申し上げます。

今回の工事では幅約4メートルで延長470メートル、堆積土砂の撤去見込みは323立米で見込んでおります。

○委員長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 450メートルで370立米ということは、浚渫をするに当たって、土砂撤去量というのはそんなに多くはないはずでございます。私が現状を常々見ておりますけれども、あそこはあつという間に川の水量が上がる、これは地元の人たちもよく見ておりますし、あつという間に溢水をしてしまう。結局は、この猿渕川の北側にある田んぼから流入してくる水というのが非常に多い。まずは、そういったところから手をつけていかなければいけないのではないかと、長期的に計画を立てていかなければいけないのではないかとこのように思いますけれども、今回のこの事業で猿渕川完結というようにお考えになっらっしゃるのでしょうか。

○委員長（針谷正夫君） 田名網農林整備課長。

○農林整備課長（田名網 清君） お答え申し上げます。

委員おっしゃるとおり、これで対応が十分とは考えておりません。これはあくまでも対症的な手法だと思っております。委員おっしゃるとおり、猿渕川には田んぼの水のほかに太平山の西山田のほうの水ですとか、あるいは北側の市街地の水とかも流入しておりますので、そういったことも含めまして、広域的に考えていかなければならないとは思っております。

○委員長（針谷正夫君） 広瀬委員。

○委員（広瀬義明君） 広域的に考えていただく中に、実はバイパス沿いを流れております用水ですとか、岩舟地域のほうに流れていくところにある水門ですとか、様々な環境がこの猿渕川に關与しているのが現状でございます。地元からの要望といたしまして、そういった様々な施設の設備計画

等の見直しを含めて、近隣住民が二度と水害に遭わないような河川整備をぜひお願いしたいと思えます。委員長、これは要望です。

○委員長（針谷正夫君） 要望をいたします。

ほかにありませんか。

白石委員。

○委員（白石幹男君） 関連でいいですか。

今回は猿瀨川の浚渫だったのですけれども、多くの中小河川というか、農業用水みたいな、そういったところでの浚渫というのが必要になっているところもあると思うのですけれども、そういった長期的というか、その計画というのは持っているのでしょうか。

○委員長（針谷正夫君） 田名網農林整備課長。

○農林整備課長（田名網 清君） 今回は、国の緊急浚渫推進事業債を活用して工事を行うわけなのですけれども、今のところ次の工事は予定しておりません。

○委員長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） どういったところがあふれるとか、そういった状況は台風19号、その前の被害で分かっていると思うのだけれども、そこをどう改善していくか。浚渫だけではないと思いますけれども、そういったところはやっぱり長期的な、瞬間的なものではなくて、計画をきちっと立てていくべきだと思うのですけれども、いかがなのでしょう。

○委員長（針谷正夫君） 田名網農林整備課長。

○農林整備課長（田名網 清君） 農業用水路につきましては、地元の用水・排水等で受益者もいるものですから、地元の土地改良区等と協議しながら、特に状態がひどいところですか、そういったところを重点的に洗い出して計画していきたいと思えます。

○委員長（針谷正夫君） ほかに質疑はありませんか。

針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） 関連なのですけれども、浚渫ということはこの323立米ですか、これを持ち出したいという計画でよろしいのですか。

○委員長（針谷正夫君） 田名網農林整備課長。

○農林整備課長（田名網 清君） 運搬、処分込みのです。

○委員長（針谷正夫君） よろしいですか。

白石委員。

○委員（白石幹男君） 同じ41ページで栃木市農業再生協議会、米の価格の減額が見込まれるというところはちょっと分かったのですけれども、その事業内容というのですか、負担金ということですが、もう少し説明いただければ。

○委員長（針谷正夫君） 佐山農業振興課長。

○農業振興課長（佐山祥一君） お答えいたします。

この負担金というのは、市のほうから農業再生協議会のほうにお金を出しまして、農業再生協議会のほうから農家のほうに出していくというような形になりますが、その理由といたしましては、飼料用米等につきましては、経営所得安定対策の関係で再生協議会のほうが農家と耕作面積を把握しているということから、スムーズな支払いができるという観点から再生協議会が実施主体として行うわけですけれども、市が再生協議会にお金を出していくと、で負担金というような位置づけにしております。

以上です。

○委員長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） これは減額に対する補助金みたいなことになるのですか。再生協議会が、減額というか、減収に対する補助金みたいな形で各農家に出すということなのですか。

○委員長（針谷正夫君） 佐山農業振興課長。

○農業振興課長（佐山祥一君） 最近新聞報道にもありましたとおり、主食用米の価格が下落したということでございます。市といたしまして、一応国のほうから作付参考面積というものが示されているのですけれども、主食用米の作付参考値が4,201ヘクタール、それに対しまして栃木市は3,725ヘクタールということで、主食用米が472ヘクタールほど作付参考値を上回るような形で、飼料用米のほうに作付転換が進んでいるということになっております。

したがって、我々が4月の補正予算を上程した説明のときにあったのですけれども、主食用米の下落が予想されるので、それが飼料用米に転換される。そうしますと飼料米の価格の下落が一層進むであろうというふうな予測の下に、10アール当たり1,000円というふうな形で要求していったわけなのですけれども、これが思うように、我々が誘導したとおりに事が進みまして、飼料用米の作付面積がかなり拡大になったということから、今回追加補正ということで上程したということでございます。

以上です。

○委員長（針谷正夫君） ほかに質疑はありませんか。

白石委員。

○委員（白石幹男君） 61ページと63ページで、コンピュータ管理費の入札執行残の中身についてお願いします。

○委員長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。

○学校施設課長（柿沼宏和君） お答え申し上げます。

こちらの入札なのですが、まずフィルタリング等ソフト、そちらの入札に関しましては、小学校が2本の入札になっております。中学校が1本の入札を行いました。そして、小学校その1といたしまして、こちらにつきましては69.94%の請負率、その2については69.97%の請負率、中学校に

ついては69.95%となっております。こちらの入札につきましては8者、そして3者辞退となっております。

次に、大型モニターのほうなのですけれども、こちらにつきましてはやはり小学校を2本に分けました。中学校1本で入札を行いました。こちらの入札請負率なのですけれども、小学校その1につきましては69.2%、その2については75%、中学校につきましては82.5%の請負率になっております。こちらにつきましては7者入札に参加しまして、1者辞退となっております。

以上です。

○委員長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 落札した業者というのはどこなのですか。

○委員長（針谷正夫君） 柿沼学校施設課長。

○学校施設課長（柿沼宏和君） 大型モニターにつきましては、地元の永山電機、栃木シンコー、マックジャパンといった会社が請け負いました。フィルタリング等ソフトにつきましては、小学校、中学校全て富士電機ITソリューションという会社が請け負いました。

以上です。

○委員長（針谷正夫君） ほかに質疑は。

白石委員。

○委員（白石幹男君） 59ページで、これも職員課になってしまうのかな。会計年度任用職員で日本語指導員が1人減で、その下に逆に外国人児童生徒指導事業費、サポーターで151万2,000円ほど、これは減になった分をこっちで賄ったということなののでしょうか。

○委員長（針谷正夫君） 金井学校教育課長。

○学校教育課長（金井 睦君） お答え申し上げます。

もともと本市は、帰国外国人児童生徒のために拠点校を設けております。その拠点校を増やそうと去年は県に申請をしたところですが、それが認められなかった。加配がつかなかったことで認められなかった。そのため、その拠点校に配置をする予定だった日本語指導員の分を減額補正をしたところですが、しかしながら、帰国児童生徒に対する支援は非常に必要なところですので、日本語指導員、サポーター、それから母語支援員につきましては、必要回数、支援を必要とする児童生徒分の回数を謝金という形で補正をお願いしたところでございます。

以上です。

○委員長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 外国人の児童生徒というのも増えてきているのかなと思いますけれども、生徒指導のサポーターというのですか、これは現在何人ぐらいでやっているのでしょうか。

○委員長（針谷正夫君） 金井学校教育課長。

○学校教育課長（金井 睦君） 失礼しました。現在の日本語指導サポーターの数字ということによ

ろしいでしょうか。サポーターは主に4名で、28名の子供たちの支援を行っているところです。一方、母語支援員につきましては主に3名で、5名の児童生徒の支援を行っているところでございます。

以上です。

○委員長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 逆に日本語指導員というのは、サポーターではなくてきちっとそういう方がおられるという、そこはどのぐらいの人数でしょうか。

○委員長（針谷正夫君） 金井学校教育課長。

○学校教育課長（金井 陸君） お答え申し上げます。

日本語指導員につきましては、拠点校に1名ずつ、計2名を会計年度任用職員として配置をしているところでございます。

○委員長（針谷正夫君） 白石委員。

○委員（白石幹男君） 拠点校というのはどこなのですか。

○委員長（針谷正夫君） 金井学校教育課長。

○学校教育課長（金井 陸君） 栃木中央小学校と大平中央小学校でございます。

○委員長（針谷正夫君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（針谷正夫君） ないようですので、これをもって質疑を終了いたします。

ただいまから討論に入ります。

〔「省略」と呼ぶ者あり〕

○委員長（針谷正夫君） 討論省略の声がありますが、討論を省略することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（針谷正夫君） ご異議なしと認め、討論を省略することに決定いたしました。

ただいまから議案第89号の所管関係部分を採決いたします。

本案は原案を可決すべきものとするにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（針谷正夫君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第89号の所管関係部分は原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

◎閉会の宣告

○委員長（針谷正夫君） 以上で当常任委員会の審査は終了いたしました。

なお、審査報告書及び委員長報告の作成については、委員長及び副委員長にご一任願います。

これをもって産業教育常任委員会を閉会いたします。

ご苦労さまでございました。

(午前 9時43分)